ウィークリー・マーケット・レポート

東京市場ウィークリー・レビュー／2026年10月5日（月）～9日（金）　発行：ていネコの投資ノート

1．今週のサマリー

- **指数の動き**：日経平均は週間721円高（+1.06%）の69,030円で4週続伸。6日に終値で約3か月ぶりの7万円台（70,683円）を回復したが、7日以降は3日続落し「7万円の壁」を確認する形に。TOPIXは+0.34%にとどまり、NT倍率は16.70倍から16.82倍へ上昇した（筆者算出）。
- **主因**：週初は9月米雇用統計の下振れ（非農業部門雇用者数＋2.9万人）でFRBの10月追加利上げ観測が後退し、半導体株が主導。週後半は米10年債利回りが7日に一時5.36%と2002年以来の水準に達し、TSMCの9月売上高の前月比減少やOpenAIの売上高下振れ観測報道でAI関連に利益確定売りが広がった。
- **物色の特徴**：株探の週間業種別ランキングでは33業種中31業種が上昇し、海運・鉄鋼・保険・非鉄など景気敏感・バリューが上位に。資金は「半導体一極」から裾野へ広がった一方、9日はファーストリテイリングとソフトバンクグループの2銘柄で日経平均を約436円押し下げた。
- **注目材料**：来週は12日（スポーツの日）が休場の4営業日。14日の米9月CPI、14～15日のASML・TSMC決算、16日の植田日銀総裁あいさつ（内田副総裁代読）が焦点で、米長期金利と半導体決算がAI相場の持続力を試す。

2．主要指標の週間騰落

指標	週末水準	前週比	騰落率	備考
日経平均	69,030.92	+721.46	+1.06%	4週続伸。6日高値70,798円、9日安値68,150円
TOPIX	4,104.81	+13.81	+0.34%	値がさ株安で日経平均に劣後、NT倍率16.82倍
NYダウ	51,654.95	+477.99	+0.93%	9日は423ドル高、地政学リスク後退で反発
S&P500	7,811.54	+88.82	+1.15%	6日に最高値更新、9日は11業種中9業種上昇
ナスダック総合	27,366.17	+175.31	+0.64%	4週続伸。8日はAI投資懸念で1.25%安
SOX指数	12,572.4	−564.3	−4.30%	8日に3.39%安、前週の上昇から一転
ドル円（円）	158.31	+0.46	+0.29%	週間レンジ157.46～158.51円、小幅円安
ユーロ円（円）	177.34	−0.30	−0.17%	週間レンジ176.22～178.34円、6日高値後に反落
日本10年債	3.010%	−0.080pt	—	7日に3.105%、週末にかけ米金利に連れ低下
米2年債	4.789%	−0.036pt	—	雇用統計後の利上げ観測後退で小幅低下
米10年債	5.242%	−0.029pt	—	7日に一時5.36%（2002年以来）、入札好調で低下
WTI原油（ドル）	91.85	+0.74	+0.81%	7日88.28ドル→8日ハリケーン接近で急伸

3．日本株：週間レビュー

値動きの経緯 ― 7万円回復も金利と半導体で失速

週初5日は、前週末の9月米雇用統計が予想を大きく下回り、10月FOMCでの追加利上げ確率が約7割から2割前後へ低下したことを好感。半導体株に買いが集まり日経平均は1,637円高と急伸し、取引時間中に7万円を突破した。6日もナスダックの最高値更新を追い風に737円高の70,683円と7月6日以来の7万円台で引け、33業種中30業種が上昇した。しかし7日は上昇ピッチの速かった半導体株に利益確定売りが出て648円安。8日はTSMCの9月売上高の前月比減少や米長期金利の高止まりが嫌気され994円安と7万円を割り込んだ。9日は米SOX指数安とOpenAIの売上高下振れ観測で一時約890円安の68,150円まで売られたが、後場はアドバンテストと東京エレクトロンが買い戻され11円安で引けた（オプションSQ算出日）。

業種別騰落 ― 市況・金融が上位、ディフェンシブが下位

上位業種	騰落率	下位業種	騰落率
① 海運業	+9.39%	① 水産・農林業	−0.75%
② 鉄鋼	+6.46%	② 医薬品	−0.48%
③ 保険業	+4.95%	③ 空運業	+0.04%
④ サービス業	+4.41%	④ その他製品	+0.71%
⑤ 鉱業	+4.40%	⑤ 食料品	+1.00%

上位には海運・鉄鋼・鉱業・非鉄金属（＋4.39%）など市況関連と、金利上昇が運用利回り改善につながる保険が並び、158円台の円安も輸出・市況株を支えた。下位は医薬品・食料品などディフェンシブで、「金利高でもリスクオン」の色合いが濃い。ランキング上は大半の業種が2%超上昇した一方TOPIXは+0.34%にとどまり、指数寄与の大きい大型株の伸びが鈍かったことがうかがえる（※2）。9日もプライムの約7割が上昇し、売買代金は約7.8兆円と高水準。

個別銘柄の話題

- **ファーストリテイリング（9983）**：8日発表の決算で2027年8月期の純利益予想5,600億円（前期比3%増）が市場予想に届かず9日に急落、1銘柄で日経平均を約244円押し下げた。一方で今期50円増配、前期配当も210円増額と還元は強化。
- **ソフトバンクグループ（9984）**：AI関連の資金調達懸念で週後半に売られ、9日は約192円の押し下げ。
- **半導体関連**：アドバンテスト・東京エレクトロンは週初の上昇の主役で、7～8日は利益確定売りに押されたが、9日は後場の買い戻しで2銘柄計約276円の押し上げ。一方、キオクシアHD（285A）は9日も約28円の押し下げ要因となり、メモリー関連の戻りは鈍かった。
- **決算・格付け**：セブン＆アイHD（3382）が今期経常予想を下方修正、安川電機（6506）は最終予想を小幅上方修正。9日はJCRファーマ（4552）が格上げで急伸、旭化成（3407）が格下げで急落した。

4．日々の推移

日付	日経平均	前日比	TOPIX	ドル円(円)	日本10年債
10月5日(月)	69,946.86	+1,637.40	4,145.22	157.91	3.085%
10月6日(火)	70,683.98	+737.12	4,183.56	158.11	3.095%
10月7日(水)	70,035.71	−648.27	4,154.11	158.08	3.105%
10月8日(木)	69,042.11	−993.60	4,091.46	157.89	3.080%
10月9日(金)	69,030.92	−11.19	4,104.81	158.31	3.010%

5．米国株・為替・金利

米国株：週間でダウ＋0.93％、S&P500＋1.15％、ナスダック＋0.64％と3指数がそろって上昇。週前半はS&P500とナスダックが最高値を更新したが、8日はAI関連企業の巨額投資と資金調達への懸念でナスダックが1.25%安、SOX指数は3.39%安となり、SOXは週間4.30%安と前週の上昇から一転。9日はトランプ大統領が中間選挙前のイラン攻撃を否定し、地政学リスクの後退で反発した。

金利・為替・原油：米10年債利回りは7日に一時5.36%と2002年以来の高水準をつけたが、10年債入札(落札利回り5.300％、応札倍率2.77倍)と8日の30年債入札の無難な通過で低下し、週末は5.242％(前週末比−0.03pt)、2年債は4.789%(同−0.04pt)。FRBは政策金利を3.75～4.00%に引き上げた後で、10月ミシガン大学消費者信頼感指数(速報)は46.3と低迷、1年先の期待インフレ率は4.7%へ上昇した。日本10年債は7日に3.105%まで上昇後、9日は3.010%へ低下。10月発行10年債の表面利率は年3.1%と30年2か月ぶりの高水準。ドル円は157.46～158.51円の狭いレンジで、米金利の高止まりと欧州の財政不安によるドル買いが下値を支えた。ユーロ円は176.22～178.34円で推移し週末177.34円。WTIはハリケーン接近で8日に3.64％急伸し週末91.85ドル。

日本株への波及：日本株を動かしたのは米金利の水準より「変化の方向」だった。利回りが跳ねた7～8日は高PERのAI・半導体株が売られ、金利が落ち着いた9日後場に買い戻しが入った。原油高・円安は市況関連株の追い風となった。

6．高配当・優待銘柄トピック

- **今週の増配：**ファーストリテイリング(9983)が今期50円増配・前期210円増額。ローツェ(6323)は経常44%上方修正で8円増額、川口化学工業(4361)は10円増額、吉野家HD(9861)は2円増額。ほか日本BS放送(9414)、オンワードHD(8016)、トランザクション(7818)、コジマ(7513)など。
- **自己株・優待：**アズワン(7476)が発行済株式の3.47%、アルバイトタイムス(2341)が3.93%の自己株消却を発表。きんえい(9636)は5日に株主優待制度の内容変更を開示した(※3)。
- **10月末権利：**権利付最終売買日は10月28日(水)、権利落ち日29日(木)、権利確定日30日(金)。高配当ではナレルグループ(9163)4.80%、ノバック(5079)4.63%、アトラエ(6194)4.38%(9月24日時点)。優待ではジェネレーションパス(3195)、パワーソリューションズ(4450)、エイチ・アイ・エス(9603)の優待利回りが高い。20日権利のヤガミ(7488、配当利回り5.56%)は権利付最終売買日が16日(金)。

7．翌週の注目日程（10月12日～16日）

曜日	イベント	注目点
12日(月)	東京市場休場(スポーツの日)／IMF・世銀年次総会(～18日)	休場中の海外の動きを13日に織り込み
13日(火)	9月国内企業物価／IMF世界経済見通し／米9月中古住宅販売	円安下の川上物価、成長率見通し
14日(水)	米9月CPI・ベージュブック／5年国債入札／ASML決算	CPI上振れなら利上げ観測が再燃
15日(木)	8月機械受注／米9月小売売上高・PPI／TSMC決算	AI需要と設備投資、半導体株の方向
16日(金)	植田日銀総裁あいさつ(内田副総裁代読)／米9月鉱工業生産	追加利上げペースへの示唆

8．総括と来週の見通し

今週は「7万円回復」と「金利の壁」が交錯した。米雇用の下振れによる利上げ観測の後退を起点に、AI・半導体主導で7万円台に乗せたが、米10年債利回りが24年ぶりの水準に達すると高PER株から資金が抜けた。前週はSOX指数の上昇に支えられた半導体主導の相場だったが、今週はSOXが4%超下落しても日経平均は週間でプラスを保ち、海運・鉄鋼・保険など幅広い業種に買いが回った。相場の性格は「一極集中」から「循環物色」へ移りつつある。ただし、値がさ株の決算や材料次第で日経平均が大きく振れる構図は変わっていない。

- **米9月CPI(14日)：**上振れなら利上げ観測が再燃し、米長期金利の再上昇とハイテク株安を招きやすい。
- **ASML・TSMC決算(14～15日)：**AI需要の確認が、東京エレクトロン・アドバンテストの方向を左右する。
- **植田総裁あいさつ(16日)：**追加利上げペースへの示唆と、銀行株・円相場への影響。
- **原油・地政学：**中東情勢とハリケーンによる原油の振れに注意。下値めどは67,500～68,000円、上値は7万円(外為どっとコム)。

※1 前週比・騰落率・NT倍率は公表値から筆者算出。日経平均は日経平均プロフィル、TOPIX・S&P500・SOXはInvesting.com、ダウ・ナスダックはAP通信等、ドル円・ユーロ円の終値とユーロ円の週間レンジはPound Sterling Live(NY終値)、国内金利はstock-marketdata.com(9日の10年債は財経新聞では3.006%)、米国債利回りはみんかぶ(NY引け時点)、WTIは11月限。
※2 業種別騰落率は株探「週間ランキング【業種別騰落率】」による。時価総額加重のTOPIXとは算出方法が異なるとみられ、順位の参考とされたい。
※3 投資主体別売買動向、個別銘柄の週間騰落率、優待変更の詳細は確認できず掲載を見送った。配当・優待利回りは各媒体の基準日時点。本レポートは生成AIを用いて公開情報を整理・執筆したものである。
出典：日本経済新聞、株探、フィスコ、外為どっとコム、OANDA証券、みんかぶ、トレーダーズ・ウェブ、世界一やさしい投資の学校、海外FXお役立ちブログ、ダイヤモンド・ザイ、Pacific Stock、ToMO Blog、invest-jp.net、財務省、Bloomberg、AP通信、Stock Market Watch、Pound Sterling Live、stock-marketdata.com、Investing.com

本資料は公開情報に基づく市況の整理であり、特定の銘柄の売買を推奨するものではありません。投資判断はご自身の責任でお願いいたします。